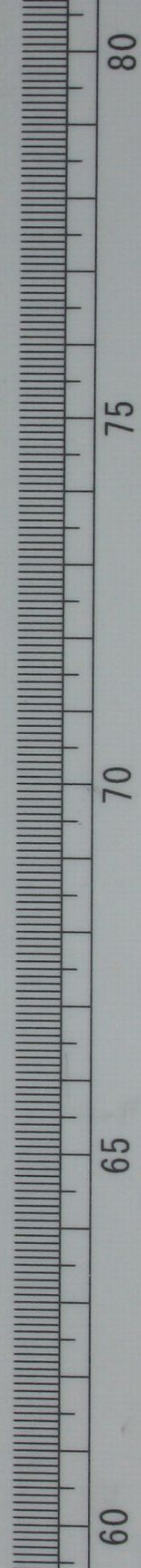




京都將軍家
所須役考
應仁武鑑
一

伊地知文庫
文庫20
368
1



文庫 20
367

鑄 新 保 天

御領高



御相伴衆 廿三葉

御旗 七葉

御一族 九葉

執事 六葉

御所 三葉

御系圖 八葉

下馬衆 九葉

抑菴栗原信充編集

初編二冊

京都將軍家

所領役考

應仁武鑑

江戸書林

播磨屋勝五郎

吉良左兵衛佐義真朝臣 六	吉良左京大夫義勝朝臣 十
淡川左近大夫將監義俊朝臣 七	石橋右衛門佐治義朝臣 十
仁木右馬頭教將朝臣 五	仁木兵部大輔成長朝臣 五
今川治部大輔義忠朝臣 六	今川左京大夫貞相朝臣 五
斯波右兵衛督義敏卿 六	細川右京大夫勝元朝臣 五
畠山右衛門佐義就朝臣 六	山名右衛門督持豐朝臣 五
細川讚岐守成之朝臣 六	一色左京大夫義直朝臣 五
畠山左衛門佐義統朝臣 六	佐々木大膳大夫持清朝臣 六
佐々木六角大膳大夫高頼朝臣 六	

京都將軍家所領役考緒言

花咲屋新之助

等持院將軍家 尊氏 弓箭を以て天下を鎮撫せさせらるる
 武家中興の運を用ひて建武王政の弊を匡ひ鎌倉右幕
 下乃舊ふ詔襲し々々萬世無窮の洪基を草創おし玉ふ
 英烈果斷瞻仰せしむ但其録を割し郡國を領たす法
 其大い異なる所あり鎌倉乃制日本六十餘郡乃國王
 悉く朝廷乃有とて是を治るふ國司と守護を以て國
 司を租稅より以て祭祀農業を勸禁し守護ハ盜賊の追捕
 國事の警衛を祇承す國司ハ其手所あり去る故に民不

親しからん守護を年限あり或は之乃身を親に文を子孫
 傳ふ故に國人と睦し恩威互ふ篤し是國司の輕く守
 護の重き所以あり然るを將軍の作を施す或は日本
 土地總く將軍乃有とかし朝廷乃公事供給盡く將軍
 よし辨濟せらるるか故に國司を置以有功の諸將を領
 國するにたらしむ遂に京鎌倉と天下兩途を分裂するに
 至る是は書を撰述する本志あり

京都將軍家小隸する國五十二國
 國名を白く記せし國中小將
 軍小隸せざる郡里あるもの

山城 將軍家政所領 大和
 河内 畠山義就
 和泉 細川教春

松津 細川勝元
 伊賀 仁木教將
 志摩 細川持賢

尾張 斯波義敏
 三河 吉良義真
 遠江 今川貞相
 駿河 今川義忠

近江 佐々木持清
 美濃 土岐成頼
 飛騨 長宗我部元親
 美作 一色義直

越前 斯波持禮
 加賀 富樫成春
 能登 畠山義統
 越中 畠山義隆

丹波 細川勝元
 丹後 畠山宗全
 但馬 畠山宗全
 因幡 畠山勝豊

伯耆 山名教之
 出雲 京極高數
 石見 大内持世
 隱岐 佐々木持清

播磨 赤松
 美作 山名政清
 備前 赤松
 備中 細川持久

備後 山名教豊
 安藝 武田信賢
 周防 大内持世
 長門 大内持世

紀伊 畠山義就
 淡路 細川成春
 河波 細川勝元
 讃岐 細川勝元

細川成俊

伊豫	土佐	筑前	筑後
細川持益	細川義俊		
豊前	豊後	肥前	肥後
大内持世	大友持直		
日向	大隅	薩摩	豊後
對馬		長門	

鎌倉の隸する諸國十五國 鎌倉所領後考
不詳の記也

相模	伊豆	甲斐	信濃
鎌倉御所領	上杉顯定	赤田信森	大井持光 小笠原政康
武藏	安房	上総	下総
上杉房朝	里見義豊	上杉政憲	千葉實胤
常陸	上野	下野	陸奥
佐竹義俊	上杉顯定	結城氏廣 宇都宮綱	結城政朝 伊達持宗
出羽	越後	佐渡	
最上義守	上杉顯定	本間政經	

北國々々主將を置國中の獲稻を計り是を五十の分ち一分を割り守護折と名付以て守護所を收め残れを二分を分ち一分を主將に收め一分を地乃主を收む主將倉中乃内より扶持を教人主將乃即後みく全く主從なり去と申令ふ所謂奴婢とは同一から以何と申也は今乃所謂主將從來の主將あるは一時乃權謀譎詐の爲に暴ふ富有とあり國乃柄を取令乃所謂即後從來の即後あるは一時乃權謀譎詐を破ら暴ふ貧窮とあり人乃庭上小腕を握たとへは上杉と長尾乃如し上杉乃關東ふ

向と云宗尊親王乃從長乃之嗣嗣乃功勞あふあふは之の
 祖先を同ハ大織冠ハ出々抑入長たり大田々を祖源之位
 改政御ハ分建清和乃源氏たり長尾々將軍忠通の末ハ之
 桓武乃平氏たり共々皇胤乃貴種なり是ハ放々結城佐行
 等乃皇將と抗禮せざるハ其尊卑を論せハ
 乃香西藥師寺ニ好等 是等持院將軍家乃草創乃洪業
 の如くハ例々知ハ
 多日からま去々成々々々多々年から以去々々敗々々所ハ以ハ
 當時乃史乘を讀ハ乃能ハらるを潜々爰ハ見るとありハ
 良史の器と云ハらり天保十六年五月栗原孫之丞信光記

京都將軍家所領役考卷第一

栗原孫之丞信光著



文治元年諸國平均ハ守護を置段別五升乃女糧米を宛
 課らせ一々後ハ所謂五十合一乃武家段乃根元ハ日々假
 ハ一段乃回々縮五十束を獲へハ二束乃稻ハ粟五升を
 得る定ハ也ハ如里 詳ハ大寶祿田考ハ 等持院將軍家
 乃草創乃日事多端ハ一々改革ハ暇ハ方事鎌倉の舊
 儀從々也ハ一ハ寶篋院將軍家 義乃時々執事 後ハ管尾
 張入道道朝改々廿合一と云ハ一是を所領役と云付ら

京都將軍家御領

其法固一段乃稻五十束乃内二束半を割く守護小納め然
曰十七束半を二分し之東七分五釐を領家了收免
廿之東七分五釐を農民得合とふせり
太平記東寺文書云
木文書柳尾古記云
小散見是敷檢地但二束半小粟一斗二升五合を得へ
目録了徹記云
此量ハ長保延久乃官升小し方五寸深二寸五分積六
十二寸五分 今量乃九合六勺 在法と以然也共伊勢大神
九撮七七を容
宮領及以大和春日社領東大寺興福寺法隆寺等小く
令前乃量令乃量を取交用ふるか故小量法ハからざる
似大連と申其實ハ同一也

山城

乙訓 葛野 愛宕 紀伊 宇治 久世 相樂

綴喜 八郡田八十九百六十一町此獲稻曰百曰十八
萬五百束 米廿二万曰千廿又石今量廿一万七千八
十石二斗二升又合計小當る國花万葉記
小山城國知行高廿一万六千全く將軍家政所小收
七十石と有小進いと云へり
此内より禁裏仙洞院官及以神事佛會乃料を辨
湫せら新く一と小舊乃如いと云

下野

足利庄田千五百町 此獲稻七十五萬束 米三万七
千五百石
今量之万六千三百 半分小鎌倉御所小收也
廿七石五斗小當る

攝津

多田庄田千八百七十六町 或云二千五百町或云二千二百町 其實を云らば

河内

茨田庄田千三百七十七町 以上之庄田五千二百二十

丹波

山國庄田二千百十四町 以上之庄田五千二百二十

七町此獲稻二百六十六萬八千五百束 米千三万二千四百廿五石今量十二萬九千二百八十八石八斗二升五合 半合及政所不収米八石八斗二升五合 雜掌方み下行也

四口合獲稻六百十八万九千七百八十束 米廿万九千四百八十七石五斗今量廿九万九千八百九十三石二斗八升七合五勺許不當る 斗八升七合五勺許不當る 此外不政所領乃庄園もあるへと連と由いすく 所見あり 後

京都將軍家御所

寺持院將軍家 尊氏 二条高倉御所 元弘三年五月十六日

よし建武二年八月二日と廿八箇月所産あり 坪數三千六百坪余

同 近衛東洞院御所 建武三年八月九日より上津の日

よし同年十月十日と廿箇月御座あり 坪數九千三百坪余

同 土御門高倉御所 建武三年十月十日より 延文三年

四月廿九日と廿三年乃間御座あり 坪數三千六百坪余

寶慈院將軍家 義隆 二条坊門高倉御所 貞和六年十月

廿六日より貞治六年十二月七日迄十九年乃際御座

あり坪數三千
六百坪余

廣苑院將軍家 義滿

北小路御所 又花園御所

永永元年三月

より應永元年四月迄廿年乃際御座あり

坪數一万
八百坪余

同 北山亭 金閣寺

應永元年より同十五年五月六日迄

十二年乃際御座あり此亭三重院竟頂乃弘一丈七

尺六寸五分四方あり
九尺八寸八分乃檼
十八楹を密へし
北面より檼あり

二重六東西弘三丈七尺四寸南北二丈七尺六寸五分

六間より四間半と
三室より分てり
北面より檼あり
裏を潮音
云ハ器計あり

閣と云下を法水院と云東西弘南北弘潮音閣と同

勝定院將軍家 義持

北小路御所 應永元年より同十六年

十月迄十二年乃際御座あり

同 三條坊門御所 應永十六年より同廿六年迄廿年の

際御座あり
坪數一万二千
二百廿二坪余

長得院將軍家 義量

北小路御所 應永十六年より同廿

二年迄十七年乃際御座あり

普廣院將軍家 義教

三條坊門御所 應永廿六年三月十

二日より永享元年三月迄十箇月乃際御座あり

同 北小路御所 永享元年三月より嘉吉元年迄十二年

年乃際御座あり

慶應院將軍家 義勝 北小路御所 嘉吉元年より同三年

迄三年乃際御座あり

慈照院將軍家 義政 烏丸御所 永享八年 延生より長祿

三年迄廿四年の際御座あり 拜敷九子三百
二十之拜余

同 北小路御所 長祿三年より文明五年八月まで十五

年乃際御座あり

同 東山御所 文明十年六月廿七日より延徳二年正月

延八年乃際御座あり 此御所東西之間半 南北之間は

方六三尺乃椽あり 内を旧室に別川 同仁堂 東永堂と

云ハ 帖乃間は帖乃間は 銀閣を二重上を潮音閣と

云方之間は 方六椽あり 下を心空教と云東西之間半

南北之間は 室に別てり

常徳院將軍家 義照 小川御所 文明六年より同十八年

迄十年乃際御座あり 拜敷三千
六百拜余

同 北小路御所 文明十五年より長享元年迄五年の

際御座あり

同 近江國栗本郡鈎里安養寺御所 長享元年十月より

同 三年二月迄三年乃際御座あり

惠林院將軍家 義植 三条通玄寺御所 長享三年正月より

延徳三年迄三年の際御座あり

同 三条御所 延徳三年より 明應二年二月迄三年の

際御座あり 此年河内正覺寺乃大喪不遭せらば此國へ
下向す候し終不防郊へ御勤座ありく十六

年御座 又永正六年より同十八年迄十四年の際御座

あり

同 河波國板東郡撫養島御所 永正十八年より大永三年

迄三年乃際御座あり 以上十代ハ京都將軍
正統相續不ありまハ

法住院將軍家 義澄 北小路細川政元館 明應二年より

永正六年迄十六年乃際御座あり 坪數三千六百坪乃
地ハ將軍管領ニ処

小御座

萬松院將軍家 義晴 崇栖院 永正十八年七月播列より

上洛ありく 暫時御座あり

同 柳御所 永正十八年より 大永七年迄七年乃際御

座あり 又より 江列松本谷へ下向 享祿元年上洛ありく

天文八年迄八年乃際御座あり

光源院將軍家 義輝 武衛陣御所 天文十六年二月より

同十八年迄三年の間爰に御座後江列杉本谷へ御動を永

禄元年六月再會此御所へ還御同八年と八年乃際御

座あり

靈陽院將軍家 義昭 二条御所 永禄十二年四月より天文

元年七月初日と五年乃際御座あり 坪數一万八千八百

旧代々權臣等私乃威福を專制せんう為了奉一く以

く將軍と仰そ一あれハ正統相續乃列不載記せへう

考知へ一以上京都將軍家十代乃際御所乃廣狹

大概を察知し儉素を仰瞻せへ一就中室町通里乃上

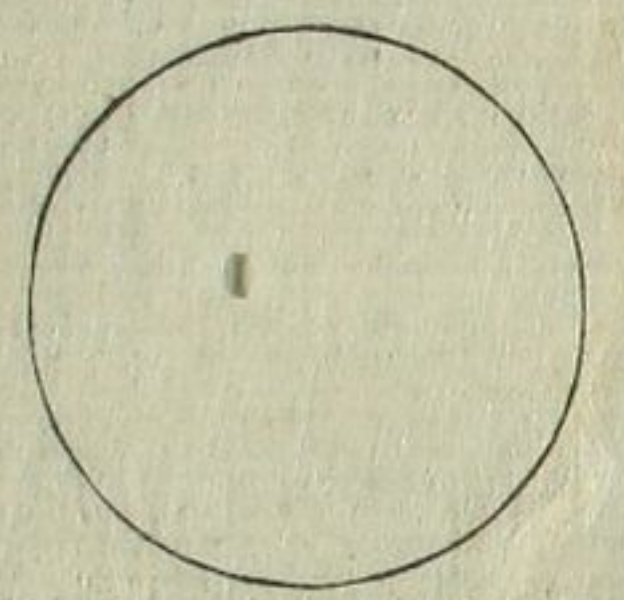
北小路乃北小庶苑勝寛長得普廣慶雲慈照六代乃將

軍御座あり去りは遂に室町を將軍御所乃称と云以

京都將軍家御旗

白地錦御旗 光嚴院より等持院將軍 尊氏 家不賜入也

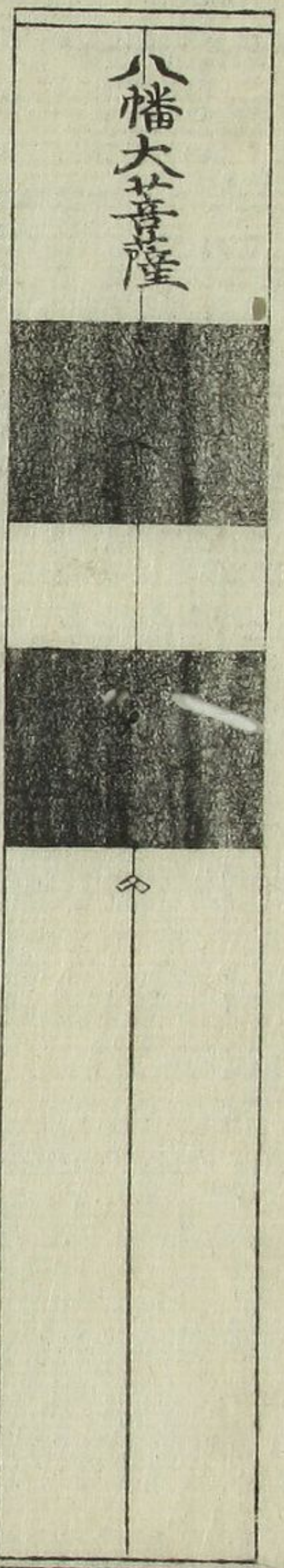
と云 梅松論 見えたり 日輪 朱 神号金



天目神 八雲神

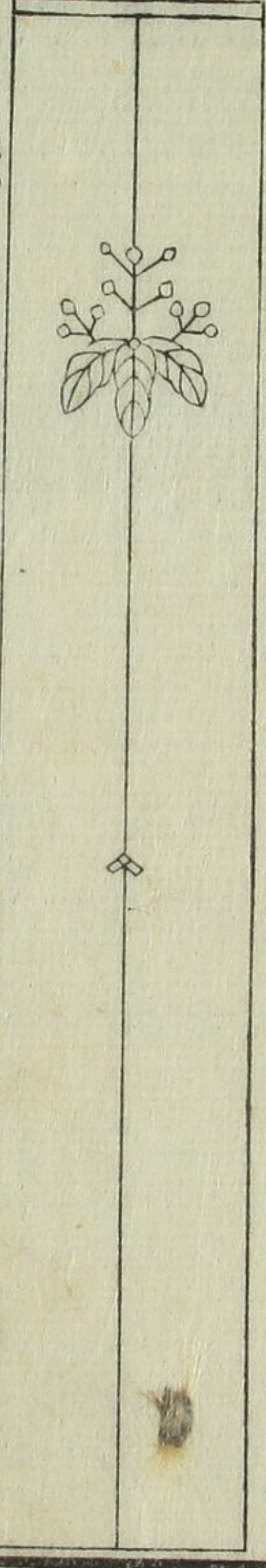
白帛引兩御旗 二幅
綴より下縫と云

八幡大菩薩



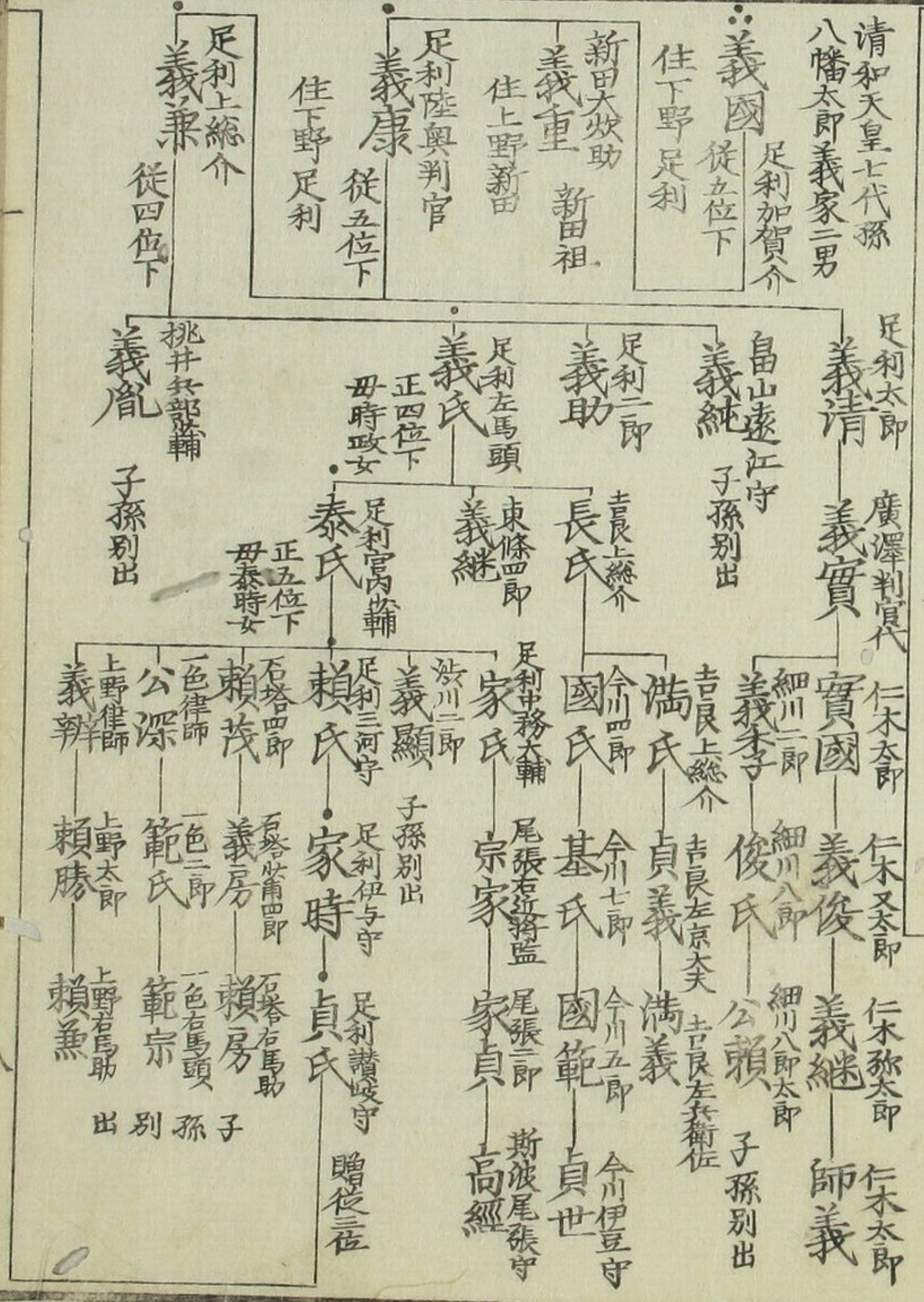
八幡殿より足利義國朝長了授らむ旗あり

白帛桐御旗 二幅



桐之根本安家乃紋ありはる八幡教貞任退治以後
上洛乃時はすれり紋を賜りしと云 見例諸家紋

京都將軍家本末分脈系圖



足利左馬頭
高義源球

義重

征東大將軍從四位參議長得院贈左府一品

權大納言

太政大臣

從一位征

征東大將軍從四位下左中將慶雲院贈左府

義詮

從二位征

義滿

義持

左大臣從位准三官

從一位內大臣右大將征東大將軍

權大納言

從二位征

義滿

義持

從一位征

征東大將軍

從一位內大臣右大將征東大將軍

正二位征

義滿

義持

從一位征

征東大將軍

從一位內大臣右大將征東大將軍

夷大將軍

宇佐院贈

應永院

品頭山

義政

義照

從一位內大臣右大將征東大將軍

左大臣從

瑞山

天山

大相國

義政

義照

從一位內大臣右大將征東大將軍

贈大相

仁山

普賢院

贈大相國

一呂善山

義政

從一位內大臣右大將征東大將軍

錦小路

從三位

左馬頭

瑞泉寺

永安寺

勝光院

長春院

直義

基氏

氏滿

滿兼

持氏

成氏

政氏

從三位

左馬頭

從三位

左馬頭

從三位

左馬頭

從四位下

直義

基氏

氏滿

滿兼

持氏

成氏

政氏

大休寺

瑞泉寺

永安寺

勝光院

長春院

乾亨院

甘露院

惠源

瑞泉寺

永安寺

勝光院

長春院

乾亨院

甘露院

御一族

吉良淡河石橋之家を將軍家一族の

英雄之秋一も下馬礼と号以誰某もくもあはるる

時之下馬礼を以て故あり

吉良

清和源氏

足利陸奥守義氏長男

長氏

上総介左衛門佐從五位下

滿氏

上総介左衛門尉從五位下

貞義

上総介左京亮從五位下

貞氏

三郎



吉良左兵衛佐義真朝

從四位下 昇殿

室家 細川右馬頭持賢女

香華地 智恩寺

正月五日年始美物五種進上於御對面所御際内御礼御練貫二重以御使拜領之十二月卅日歳末御礼出仕

經氏

上總介從五位下
奥列三列武列相列吉良
蔣田等祖

滿義

左兵衛推佐左京大夫
從四位上 昇殿
延文元年卒

滿貞

左兵衛佐 治部大輔
康永天龍寺供養隨共
法名省堅

俊氏

右兵衛佐

義高

左兵衛佐

義真

左兵衛佐

足利義氏二男

義繼

從五位下左馬頭
住三列吉良東條依此
流称吉良東條後住于奥
列 法名寂光寺等覺

經氏

本即上總介從四位下
為滿氏子
上總介從四位下

經家

修理大夫 左京大夫
正四位下 号常樂院
將監宮内中輔從五位下

貞家

三郎左馬助從五位下

貞經

從五位下中務大輔

氏家

滿家

陸奥管領

三河

八郡田七千八百十町 内一色保
千七百七十町

一色家 乃獲縮三百八十二萬七千
領之

東 氏直錢廿一万千六百廿貫文より
氏米今量十七万八百八十三石一
斗八升

米六万七千七百六石八斗八升余 内斗
八千

六万九千二百 吉良家領
六十六俵余

米八千六百四十二石一斗八升余 内斗
二万八

二百六 三河守護職折 内千四百
十俵余

六升二合八勺 一色家分取也

京都館

三條乃北高倉乃西 乃東亦里

仁王乃御所亦
里より官御事あり後平家了傳
より平家了義二条家子領せ
らむを吉良貞義借領せし由券

女あり別 千二百坪 舟岡乃南

三河吉良西條 京都分尺十里

尾城

足助八郎五郎重行

大阿内左衛門大丈元綱

戸田右近大史將監

東條備中守親春

豊宗

上総介

治氏

正五位下 中務少輔

治家

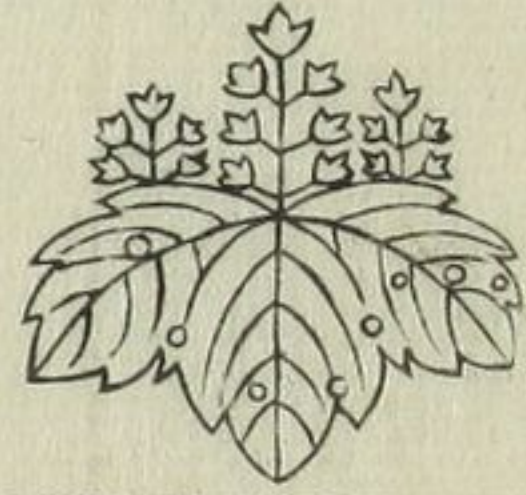
治部大輔
住上野飽間

持家

左京大夫

義勝

左京大夫



上洛年正月式西條家全同
但五年目上洛二年在京

吉良左京大夫義勝朝臣

從四位下 昇殿

室家 山名右衛門督持豊女

香萃地

建仁寺

三河

幡豆郡千之百町

土佐

窪川庄

千之百町

陸奥

黒川庄

二千之百町

合之千百町乃獲稻二百八十石

万束

以直錢十八万二千貫文之

以米今量十二万二千石百
四十七石八斗
許ふあくる

米之万八千六百八十八石六升二合

石

四斗八十四石六千七百

吉良

家領

米六千七百七十七石三斗七升八

合三河陸奥土佐之國守護

職新

内陸奥乃分二千七百八十

家へ収む吉良家乃領
十八万二千六百七十六石

淡川 清和源氏

足利陸奥守義氏三男

泰氏 宮内少輔

家氏 中務大輔 斯波祖

義顯 足利次郎 少輔三郎

依為氏 又住同国邑樂郡板倉村 又稱板倉

賴氏 治部權大輔 將軍家祖

義春 三郎四郎 母平為時女

貞賴 丹波守 母平時廣女

京都館 上洛乃年入建仁寺大統院

久昌院乃内

居城 三河吉良東條 京都廿十里

家老 牧野新三郎

富永勘解由左衛門

瀬戸右近大丈

正月五日年始御礼進上物無之
御對面所御際内 御練貫一重居廣蓋
於御前拜領之
土月卅日歲末出仕

淡川左近大夫將監義俊朝臣

從四位下 昇殿

室家 起勝寺玄康法印女

香華地 遣迎院



九列探題職 九列九十江郡田十萬

六子九百八十二所乃所役米今量乃

十二万九千五百四十六石八斗余 四年入 廿二万

之千八百六 是收也入之始也共肥後日 十七儀余

賴潤

義季

女子

直賴

女子

義行

滿賴

義俊

義鏡

刑部大輔從五位下

從三位賴子
直義卿室

中務大輔

從一位孝子
義詮公御皇所

右衛門佐武藏守

右兵衛佐 九列探題

左近大夫將監 九列探題

石橋

清和源氏

足利泰氏長子

家氏

足利太郎 尾張守
住下總大崎城

義利

廣澤太郎 又稱石橋

義博

石橋三郎 又稱吉田

和義

石橋三河守 尾張守
左衛門佐 若狹守護職

從四位下 初氏義
觀應二七廿九剃髮心勝

義幸

左衛門尉
宣義

棟義

陸奥守 官內中輔

向大隅薩摩平拘くわ武威了服
せり九の所役九十二万石子依余あま賦た

京都館 東山寺如堂前

居城 筑前那珂郡博多 京都六百六十六里

家光

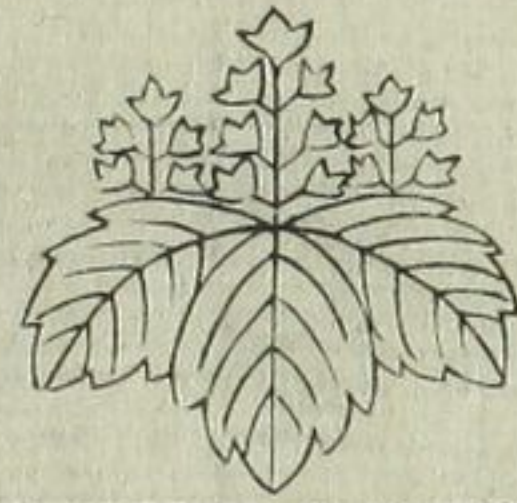
正月五日年始御礼進上物無之
御對面所御際内 御練習員二重居廣義
於御前拜領之
土月廿日歳末出仕

石橋右衛門佐治義朝臣

從四位下 昇殿

室家 柳原權大納言行光卿女

香華地 嵯峨三尊教院



美哉 三方莊之百五十町 因幡 鳥取保

但馬 高柳保之原保之

百二十三町合千二百四十町乃獲稻六

十二萬束 以直錢之万七千二百貫文
以米今量之万之十九石云

滿博

左近大夫將監

光義

尾張守

祐義

弥三郎 右衛門佐

房義

彦三郎

仁木

清和源氏

仁木又太郎義俊一男

義繼

仁木弥太郎

住三外賀茂郡仁木保

義秀

仁木孫太郎

子孫別也

義綱

仁木三郎

師義

仁木三郎

賴直

仁木太郎 林豊島

子孫別也

義勝

仁木二郎 又稱矢田

義任

仁木三郎

米一萬石子二百六十八石八斗八升八合

石搦家領

米千石百一石九斗八升

石搦家領

余若狹因幡但馬之國守護所

納付

京都館

一条乃北東洞院乃東

尾所

但馬養父郡火細 京都廿二里

家光

廣澤肥後守宗行

正月五日幸始御礼下馬衆之次
御練貫一重拜領之
土月卅日歳未出任

仁木右馬権頭教將朝臣

室 赤松兵部少輔持家女

香華地 二尊教院

伊勢

菴藝郡千二百八町 河曲郡千八

十八町 終麻郡千六百廿一町 三重郡

千七百六町 朝明郡八百六十四町 合

六千六百九十七町 氏直錢方万九百

量十六万二千二百石

石八斗二升八合

賴仲

僧正 廿納言法印
右官別當

義連

仁木太師三郎 又稱細川
号上池又三郎

賴章

仁木三郎三郎 兵部大輔
左京大夫 從五位下周防守

伊賀守

文和至延文三執事
延文三五雜髮同四十三卒

義長

仁木三郎四郎 右馬助修理亮
右馬權頭 越後守 右京大夫

賴勝

彈正少朝 讚岐守

義貫

二郎

滿長

右馬助 越後守

滿將

右馬助

教將

右馬助 右馬權頭

成將

右馬助

賴夏

左京權大夫 中務少輔
正五位下 實細川和氏子

義尹

兵部大輔 左京大夫
丹波守 護職 為祖父子

滿尹

延文三五雜髮同四十三卒
兵部大輔

持長

兵部大輔

成長

兵部大輔

政光

兵部大輔

米七万七千六百一十一石又斗四升一合余

仁木家領

仁木家領

米八千一百一十一石七斗四升余

伊勢守護料

京都館

三條烏丸

居城

伊勢於鹿郡 龜山 京都廿二里

家老

正長元
文安三

生
家督十九



仁木兵部大輔成長朝臣

室家 土岐 女

香華地 二尊教院

丹波守護職 六郡田一萬八百五十

五町 葉田郡山國庄二千百十四 八郡

田八千七百一十一町所役米一萬

石百八十七石又斗三升六合二合余

四斗八二万六千石 仁木家領
百六十八俵余

今川

清和源氏

吉良上總介長氏二男

國氏

今川四郎住三河幡豆郡今川莊依為氏

基氏

今川七郎

經國

初氏関口五郎

賴基

式部大輔

國範

五郎遠江駿河守護弘和三年九十心省入道

範氏

中務大輔上總介從五位下駿河守護

貞世

伊豆守左京亮正五位下鎮西探題遠江守護了俊

京都館

二条東洞院

今つねや町仁王門町の邊

丹波

丹波多紀郡福住末都々又里

家光

嘉吉二年

生家督



今川治部大輔義忠朝臣

室家武田安藝守女

葬駿河增善寺

駿河

七郡田九子七百九十七町乃獲

稻口百八十九萬八千二百束

以直錢廿九万

三子九百十貫文之代米今量廿二万七千二百廿六石二斗二升又合不あくる

米十一万二千七百廿二石八斗八升四合余

四斗八升九万八千八百三十二石八斗八升四合余今川家領

氏兼 蒲原彈正少弼

仲秋 万里小路中務輔 從五位下
右衛門佐 為貞世子

貞秋 遠江守

貞臣 左京大夫

貞相 左京大夫

範將 遠江守

貞延 六郎 陸奥守

泰範 上総介 從五位下

氏家 中務大輔

範政 民部少輔 上総介 從五位下
新續古今作者

泰國 官内少輔

範豊 立郎
母上杉氏定女

範忠 彦五郎 民部大輔
母同

義忠 治部大輔 上総介

範勝 弥五郎

範慶 小麻呂孫九郎

範頼 餘五郎

範清 新五郎

米一萬石八百六十六石六斗一升余

萬九千九百 駿河守護職新今川家
六十六俵余

納む

京都館 上洛の時ハ六条本國寺入返

居城 駿河安倍郡府中 京都々八十二里

家老

永享三 家督



今川左京大夫貞相朝臣

室家

寺

遠江 十郡の内濱名敷智豊田周智

比那の田六千三百八十八町乃獲稻三

百千石萬九千石 式直錢十八万九千石
百四十貫文

量十八万石
之石又千五升

米七萬二千六百石

氏親

治部大輔 修理大夫 正五位下
上総介

女

内大臣實望公室

氏輝

五郎

義元

從下 藤介 兼 兼 兼

足利十八万石 今川家領
二百一俵余

米七千六百石 十二石六斗七升七合余

甲八一万九石 旧郡守護新今川家
百三十一俵余

收納

京都館

萬里小路の西又條の南
今忠安丁

尾城

遠江敷智郡引馬 京都六十里

家老

京都將軍家職掌大畧

執事

等持院將軍家 尊氏

乃時々高武藏守師直もれ

を奉る 觀應二年二月廿六日師直誅せらば 後仁木九

京大夫頼平 細川相摸守清氏 畠山河波守國清 入道道

誓相續く 乃職を補せらば 實徳院將軍家 義隆 嚴

職乃初猶執事と称せらば 貞治元年尾張九衛

門佐義將 職を任せし 時より初く管領と称せらば

乃の里 一書小義將 明德二年二度執事を補し けり 時より

集貞治六年乃條小鎌倉基氏 朝臣を幕府と称し 上夜
憲顯を管領と記す 鎌倉院の管領乃時を用入 京都何

そ改めらるる一とあつらんや 義将乃次小細川頼之富士
 依り定く貞治元年とい 基國ふも補ふく義将の子義重を奉厚ひ終り
 三家ふの職を世去く他家競望の念を絶ふふ
 於く是を三職とい

斯波

清和源氏

足利泰氏長男

家氏

足利太郎 尾張守
 母平朝時女 法名蓮阿
 住下総大崎城

家宗

足利又太郎 左近将監
 尾張守 号斯波

義利

廣澤太郎 又号
 石橋

明覺

鎌倉勝國寺別當

貞敷

大板三郎

高經

足利斯波尾張守
 從五位下修理大夫
 母大江時秀女
 等持院將軍賜尾張越
 前二國 入道道朝
 貞治六七十三卒六十六

家兼

式部大輔 伊豫守

家長

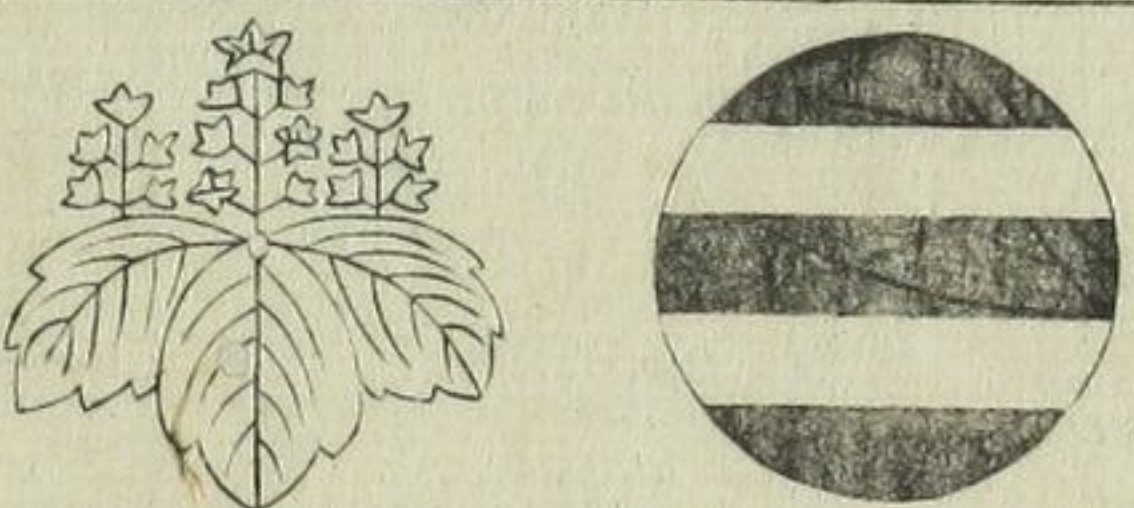
足利弥三郎

氏經

九列探題 左京大夫

氏頼

左衛門佐



斯波右兵衛督義敏卿

室家

永享二生于越前
 亨徳元家督廿三歳
 文明十六八八従三位

延徳二正七歳于越
 前大野六土歳

尾張

八郡 回一万千九百卅町 愛知郡千
 百十四町

熱田神領 七郡 回一万八百十六町 乃
 守護不入

獲稻五百四十万八千束 此米今量
 二千七十七石六斗小當る此を廿分
 一分を守護職料と一錢里を二分して
 一分ハ斯波家不收一各
 八七郡乃地頭より收納

米一萬二千百石八斗八升 四斗入之万二
 千七百五十二

儀ハ尾張守護職料
 升

米十二萬四千百五十八石六斗六升

四斗入之十一萬千石 斯波家領
 四十五石六斗六升奉里

義將

從四位上右衛門督
新拾遺集作者昇殿
貞治元補竹原領 應永十
七五七卒六十一

義種

大野修理大夫 子孫
列出

義重

從三位左兵衛督
管領新續古今作者

義淳

從三位左兵衛督
管領

義卿

從四位上左衛門佐
永享八九晦卒廿七

義健

從四位下治部大輔
亨德元九朔卒六

義敏

從三位左兵衛督
實大野持種子

義廉

從四位下治部大輔
實波川義俊子

細川

清和源氏

細川八郎太郎公賴二男

賴春

從四位下刑部大輔讚岐守
源藏入領讚岐三郡地

賴之

從四位下武藏守右馬頭
貞治六十二補管領

領河波國五郡 康曆
元出家法名常久明德
三三二卒六十四

賴有

右馬頭 和泉屋形

賴元

從四位上右京大夫
實賴春子 管領

明德三正四賜丹波國 新後
拾遺新續古今作者 應永
四年五七卒五十号妙觀虎

米十二万石千四百五十八石二斗六升

七郡中地頭領主野間小里齋
藤三浦八坂芝山荒尾内海等
乃氏族出也
領地高き里

京都館

勘解小路南室町西二千五百坪

今下五賣の南室町の西武衛門町跡町の
地あり昔左兵衛府の領地あり故
武衛門と云ふ
祿せ也 康永年中義將以来居之

居城

尾張春日郡清洲 京都より中

仙道二十六里

家老 織田彈正左衛門尉平敏定

永享二生于京
嘉吉三家督十三歳
文安六四十四從四位下武藏守

細川右京大夫勝元朝臣

室家 山名右衛門督持豐女

文明五五十一卒于京
四十四葬于龍安寺

讚岐

十二郡乃内大内寒川三木二郡

田二千百六十五町七段

河波

十一郡の内勝浦三好那賀阿波美

馬五郡田二千九百十町



滿元 九郎從四位下右馬助
右京大夫 新續古

今作者 母赤松則祐女
應永十九年補管領卅五
同卅三年十月六日卒四十九
岩栖院道親

滿國 六郎 子孫別出

持元 五郎 右馬助右京大夫

持之 九郎 從四位下右京大夫
中務少輔 新續古今著

永享四補管領卅三
嘉吉二八四卒四十三弘源
院常喜

持賢 右馬頭子孫別出

勝元 右京大夫 從四位下
武藏守 妻山名宗全女

永享二庚戌生
文安二管領十六歲
同六十四從四位下武藏守
十六日義成元服加冠役
文明五年五月十日卒四十四
号龍安寺宗室仁榮

成賢 弥九郎 右馬助

勝之 六郎 右馬頭

實下野守教春子
後入大德寺為僧法名
宗林

政元 聰明丸 右京大夫從四位下
文正元丙戌生
文明五家督八歲

丹波 六郡田一萬八百五十五町 郡田
國庄二千百十四町 五郡田八千七百四
政所領守護不收 十一町

十一町

根津 十二郡田一萬二千五百廿五町 河邊郡多

田庄千八百七十六町 十一郡田一萬六百
政所領守護不收

四十九町 以上四國廿四郡田二万四
千四百六十五町七段乃獲稻千二百廿

三萬二千八百五十束 此米今量入之
百八十一石五斗八升二合五勺不當

此米今量入之 五十九万二千六
百八十一石五斗八升二合五勺不當

此米今量入之 四合一勺余の讚岐國
一分の四國廿四郡の地頭了收納

米二萬九千六百廿四石七升九合余

四國守護職料 二千六百廿三石二斗
四合一勺余の讚岐國

守護所へ收 三千五百廿四石七斗二升
七奈五勺の河波國守護所へ收 一万五

百八十七石五斗二升六合二勺余の丹波
國守護職料 一万二千八百九十八石六

斗一合二勺余の
根津國守護職料

米廿八萬千五百廿三石七斗五升余 四斗
入七

十萬三千八百九俵 細川家領
一斗五升一合余

米廿八萬千五百廿三石七斗五升余 讚岐

永正四年六月廿三日夜
 福井四郎竹田孫七
 業師寺三郎右門
 香西又六八九等
 切殺入 二永分流記

文明十八年七月七日補

管領

永正四年六月十三日夜遭

害四十二歳号大心院

高國

實民部少輔政國子
 從四位下武藏守管領
 初仕義植後仕義晴

澄之

實九條政基公男
 九郎丹波守護職

澄元

實讚岐守義春子
 從四位下右京大夫

畠山

清和源氏

足利上總介義兼一男

義純

從五位下遠江守
 母畠山重忠女繼母方
 氏稱畠山領上列田中
 岩松武列畠山

泰國

從五位下上總介

國氏

正五位下河内守

貞國

從五位下式部大輔

家國

從五位下治部大輔

國清

修理大夫河液守
 正五位下入道道誓

小高松・詔間・香西坂東・板西・板橋・河渡

下・好櫻間・撫養・海部・丹波・不確井・久

下・伯下・酒井・河原・豆・大・八・新野

長澤・櫻井・不能・伊丹・池田・河原・林・有・馬

等乃氏族去之

領さる高か

京都

大宮西寺内乃南 堀川乃西寺

内乃南

室所乃西北小路乃北之ヶ所

丹波

丹波桑田郡龜山 京都より三里

家老

香西

赤澤

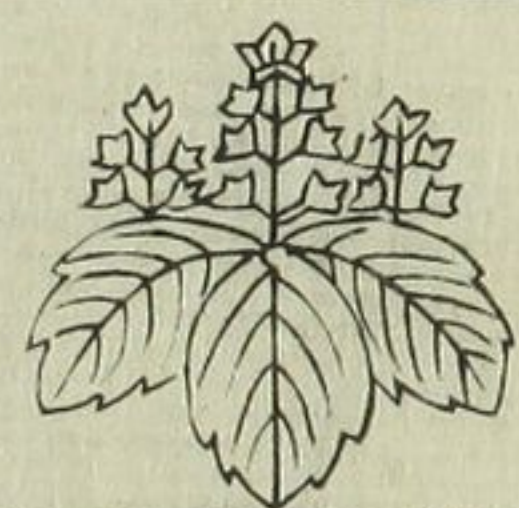
藥師寺

正長二年巳酉 生

享德二年四月 家督廿

畠山右衛門佐義就朝臣

室家 日野 権中納言資 卿女



明應元年二月卒葬
 河内古市郡西琳寺

河内

十五郡田一萬九百七十七町 英田 床千

二百四十七町改
 所領守護不入

十四郡田九千六百二町

紀伊

七郡田七千九百九十八町 以上二國

廿一郡田一萬六千八百一町乃獲稻

義深 三郎 尾張守河内國主
康曆元正三卒

清義 左近將監 子孫別出

義熙 播磨守

基國 右衛門佐從五位下
管領

滿國 左京大夫

滿家 左衛門佐從三位
應永七正一賜紀伊
同十七補管領

永享五九十九卒

滿則 修理大夫子孫別出

持國 從三位右衛門佐
嘉吉二管領

享德四三廿六卒
光孝寺德本

持富 尾張守

持長 右馬頭

政長 從三位左衛門督
尾張守 彌正少弼管領
實持富子

明應二年四月九日於河内
國正覺寺自殺

義就 右衛門佐伊豫守
從五位下 持國賢子

與政長爭家督不克
居於河内國市屋城明應
元年卒

八百四十萬五百束 此米今量不
口十萬七千石

二斗二升八合不當
守護職料とて残
畠山家了收一分の二國
廿一郡乃地頭了收納

米二萬三百五十二斗一合余ハ二

國守護職料 一萬千六百二十一石六
斗三升三合七勺五撮ハ

河内國守護職料 八千七百十八石五斗
七升七合二勺五撮ハ紀伊國守護職料

米十九萬二千三百廿七石七合 四斗八石
十八萬之

千三百十七石 畠山家領
二斗七合余

米十九萬二千三百廿七石七合 河内了
石川志紀

古市錦織和田隅屋申斐成平石平
周紀伊 小思地紀伊 湯淺貴志河内
新官乃氏河内 核河内 出邑
を領する高あり

京都館 春日万里小路大炊御門乃東類

口町まぢ二千八百坪 今柳馬場丁ハ
立花町乃地あり

辰城 河内國古市郡高屋京都より十

八里 南都通
廿一里

家光 譽田之河守 河内國古市郡
譽田領主

遊佐河内守藤原國助

甲斐成民部丞福盛直

御相伴衆

將軍家諸家へ成せらるる時御先へ系向
まゝ御入り侍御座に昵近去々進退不隨入衆を云其
家五戸あり山名細川下屋一丈畠山能登佐々木極也
云職乃内ふく細川聰明丸政元幼推乃間御相伴礼了
補せしむ別格と云へし

山名

清和源氏

足利武部大輔義国嫡子
新田大次助義重長子
山名三郎從五位下
伊豆守 文治六年受領
之一住于上野多胡郡山名

義節

新田山名太郎

重國

山名太郎

重村

山名二郎

義長

山名孫二郎

義俊

山名彦二郎

政氏

山名孫太郎

時氏

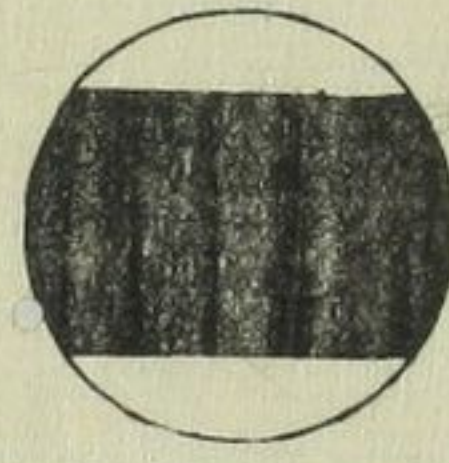
從五位下伊豆守

師義

右衛門權佐

義理

修理大夫



山名右衛門督持豊朝臣

室家 畠山徳本女

應永十甲申生 家督十七
同 廿七年
文明五三十九卒葬
於梅津長福寺

仙馬

八郡田八千十六町乃獲稻八百

八千束 以米今量入る十九萬石千百
八十七石六斗不當る廿分して
一分の守護職料とて残とを二分して一分の
山名家入収一分の八郡乃地頭入収納

米九千七百九石二斗八升八當國の
守護職料

九萬二千二百廿九石二斗一升 四斗
八廿

三萬五百九十七 山名家領
俵二斗一升

米同上 乃氏族也也を領也

播磨守護職新

十郡郡田一萬石百十

氏冬 中務大輔

氏清 陸奥守

時義 伊豫守 左京權亮
彈正少弼

義數 官内少輔

時熙 官内少輔 右衛門督
新續古今作者

時長 小二郎

持豊 彈正少弼 右衛門佐
右衛門督 從四位下

文明五三十九卒 遠碧院
崇峯宗全

細川 清和源氏

細川讚岐守賴春三男

詮春 左近將監 讚岐守
阿波國守護 号下

細川 貞治六廿五卒 卅八

義之 兵部少輔 讚岐守
應永十七六十卒 卅二

滿久 兵部少輔 讚岐守
永享二九廿八卒

持常 讚岐守
阿波國勝浦郡中田

村桂林寺本願 室徳元
三十六卒 卅七

教祐 六郎 兵部少輔

旧所守護職折一萬二千六百十二

石九斗五升七合五勺 四百八斗
五百二十石儀

三斗八升七合五勺 山名家領
合五百石

京都館 大官西五辻乃北二千六百坪 今致

屋乃つと云地

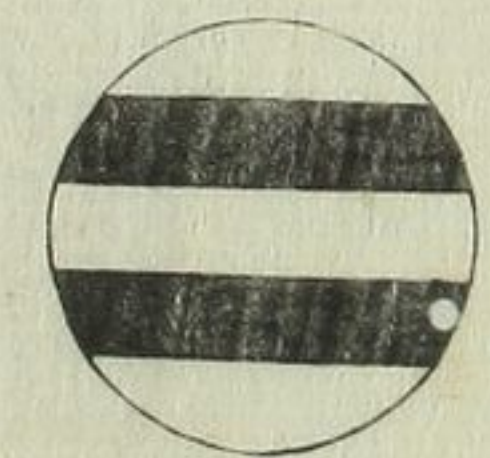
居城 但馬國出石郡出石 京都が廿二里

家老 大田垣土佐守

垣屋越前守

永享六甲寅生 室徳元 家督十六歳

從五位下



細川讚岐守成之朝臣 室家

永正八八九卒 葬于阿波國勝浦郡丈六寺

阿波 十郡乃内麻殖名東名西板東板西

海部六郡田二子又田町乃獲稻百

廿八萬二千石 以直錢七万五千百貫

十九石田斗不當守護職折 家領國領乃差分上不同

米三萬三千八百石田斗并七合五勺

成之

六郎 實教祐子
兵部少輔 讚岐守
永正八九九卒 七十八
靈院道空大川 伊 浦郡
本莊村丈六寺建立
又名久之

政之

兵部少輔 讚岐守
早世

義春

初之勝 亥九郎
讚岐守

一色

清和源氏

一色右馬頭範宗長男

詮範

左京大夫 右馬頭
從五位下 兵部少輔
領參別設樂郡一色保伊勢
負辨郡一色若刈今富庄

滿範

修理大夫 兵部少輔
右馬權頭從五位下

範貞

兵部少輔

義範

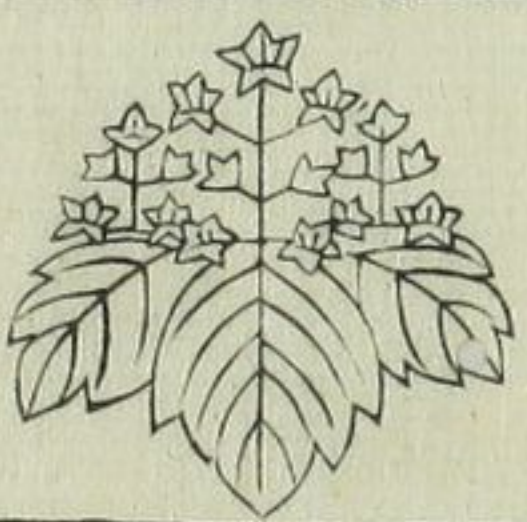
兵部少輔

持信

兵部少輔 新續古今作者

教親

左京大夫



永享三

家督

一色左京大夫義直朝臣

室家

葬遣迎院

參河

設樂郡一色保千七百七十町

伊勢

負辨郡一色莊九百五十町

若狹

今富庄二千五百五十町 以上三國

田口二千七百七十町乃獲稻二百十二万

五千束 以直錢十二萬八千百貫 以米令
量十萬三千四百七十石七斗五升

成之

内之千五百廿四石七斗七合五勺八細川
勝元朝臣乃家上之納守護職折之
田斗八八万四千六百
二十六俵三升余 細川家領

政之

米三萬三百廿九石七斗
可成 六郡の
内乃甲乙人
等乃領之
高方り

義春

京都館 二條北堀川乃東三千六百坪余
下屋敷と云。今教本町
ふ。西町と地あり

居城

阿波勝浦郡勝浦 京都府卅七里

家老

義直

左京大夫修理大夫
從四位下

義遠

兵部少輔

不當差分

上不同

米五萬八千四百廿七石六升五合千七

百六石六斗九升八丹後守護職新あり

四斗八升四万六千六十七俵余不當

一色家領

米五萬千七百廿石之斗七升三河伊勢若狭國人へ収

京都

中御門堀川今堀川乃東

丹城

丹後與謝郡宮津京都廿四里之町

家老

白田山

清和源氏

白田修理大夫滿則長子

義忠

修理大夫 左衛門佐
從五位下 冷清寺

義慶

左馬助 修理大夫

義有

二郎 治部少輔

政國

能登守 修理大夫

義統

左馬助 右衛門佐
能登守 修理大夫

文明五補管領
大德寺興臨院開基

義則

修理大夫
管領



白田山左衛門佐義統朝臣

室家 富樫介女

佐崎 妙滿寺

永享九 生 家督廿七
寛正四

能登

口郡田八千四百七十九町乃獲稻いぬ

百廿之萬九千五百束以直錢廿五万

以米今量廿万五千四百三石七斗七升八合千之百七十貫元

米十萬二千七百一石八斗八升七合五斗

入廿五万六千七百 富山家領外河内越

内越

義春 上杉民部少輔後号
畠山入菴

義隆 能登守修理大夫

中ふり領所あるる地名
町段考入分外ふり

京都館 室町乃西五辻乃北
今畠ふり乃
と云東西毋

間余南北 二子坪余
六十間余

居城 能登麻島郡七尾 京都七十三里

家老 神保宗右衛門尉長誠

遊佐

佐々木 宇多源氏

宇多天皇九代後亂
佐々木源三秀義嫡子

定綱 太郎左衛門尉
從五位下

廣綱 山城守左衛門尉
万木葛岡寺祖

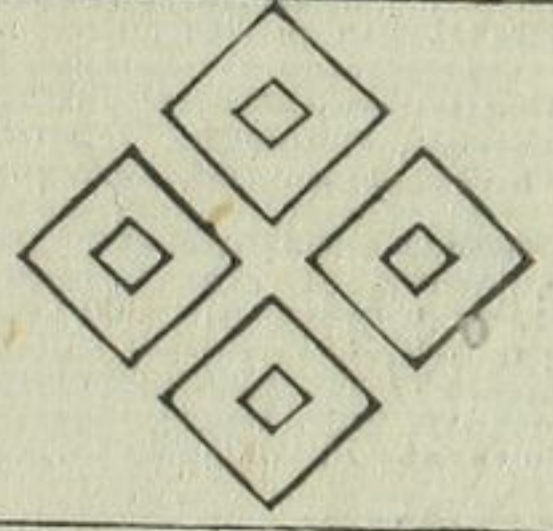
信綱 四郎左衛門尉
從五位上

重綱 大原太郎 小原自井祖

高信 高島隱岐守 高島平井祖

泰綱 從五位下左衛門佐 壹岐守
六用祖

氏信 從五位下近江守
京極祖



應永廿二年 生
同 廿八年 家督八歳

佐々木大膳大夫持清朝臣

室家 三条實雅公妹

近江 十二郡の内大上坂田磯井伊香高

島愛智六郡田一萬六千七百廿五町の

獲稲八百卅六萬二千六百束 以直錢五
十萬千七

百五十貫の米令量四十萬五千
百六十二石一斗二升五合六厘

米十九万二千石八斗八升合之

満信 三郎左衛門尉

宗綱 四郎左衛門尉

宗氏 三郎左衛門尉

高氏 四郎左衛門尉 從五位下
佐渡守 正中三三三與北

高時出家法名道普
與等持院將軍定天下有功
賜江州半國出雲隱岐飛列
三國守護職

高秀 五郎左衛門尉 治部少輔
大膳大夫 從五位上

高詮 從五位下 左衛門尉
治部少輔

高光 治部少輔
藤原寺

高敷 京極加賀守

持久 尼子刑部大輔

持光 治部少輔

持清 六郎 治部少輔
從四位下 大膳大夫

高敷 加賀守

勝秀 中務少輔

四斗八斗八万千五百
一俵八升八合三百余
佐々木家領

米二萬二千八百一斗并六合
近江半國守護

折斗八斗五万六千
佐々木家領

米十九萬二千二百一斗并八升八合

近江 六郡小高宮久德磯野淺見と改木
村大野木之田村赤尾野村等の氏族の領

出雲 十郡田九千九百六十八町

隱岐 四郡田五百八十八町

飛騨 二郡田六百十五町 之國合一万千五百

六十八町乃守護新米一萬三千八百

廿七石二斗四升 四斗八斗二万二千八百

佐々木家領 近江才國及之國の守護職

新共合五十六万八千
五百九十四俵二斗余

京都 二條京極二千六百坪余 今此

場金蓮寺六條道場 京極乃西四條の

北千八百坪余 今大文 二箇所 依之址

極家

近江 近江坂田郡伊吹山太平 京都あり

家老 上坂治部大輔景重 廿二里

佐々木六角 宇多源氏

佐々木四郎左衛門信綱三男

泰綱 左衛門尉壹岐守從五位下

賴綱 備中守左衛門尉從五位下

時信 三郎左衛門尉從五位上

氏賴 左衛門尉從五位下

直綱 四郎左衛門尉

信詮 五郎左衛門尉從五位下

光綱 備中守 称山田 六郎

義信 三郎 早世

滿高 左衛門尉備中守從五位下

滿綱 初一經 大膳大夫 文安三正廿三自殺

久賴 近江守 從五位下 康正三卒

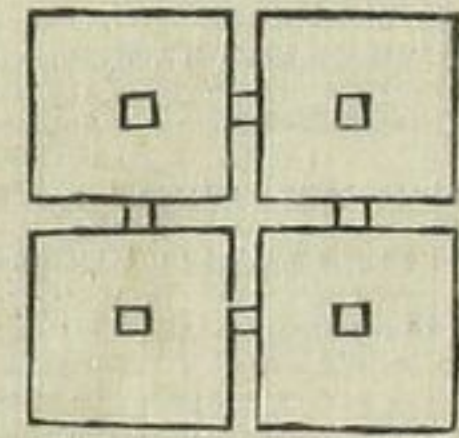
高久 餘江備中守

高賴 大膳大夫 永正十七八廿卒

氏綱 近江守 永正十五七九卒

高賴 彈正少弼 從四位下 天文廿正二卒

高保 大原中務大輔



文安元 生 家督廿四 文正二

佐々木六角大膳大夫高賴朝臣

室家

天龍寺

近江 十二郡の内神崎蒲生甲賀野洲

栗本八郡 滋賀郡八山門領 乃因 守議不入なる

一萬六千八百七十二町乃獲稻八百四

十二萬六千石 以直錢六十万六千六百

十萬八千七百石 四石二斗五升

米十九万石子百石三石九斗九升八合

比斗八石八斗八升八合 六角家領 六十九石三斗九升八合

米二万石百廿六石二斗一升 比斗八石六斗 午九斗餘

近江守國 六角家收 守護新

米十九万石子百石三石九斗九升八合

近江 五郡小横井伊庭日野蒲生平井

京都館 六角乃北富小路乃西 今大黒丁 白か八町

云邊あり是佐々木 時信の家の宅地と云

尾城 近江蒲生郡八幡山 京都廿三甲

高實 梅戸右近大夫

義賢 左京大夫 從四位下
薙髮号承禎

女 土岐成賴室

女 本願寺頭如妻

家老 平井加賀守

伊庭備中守

多賀豊後守

花咲屋新之助



阿出川魚鱗